学校番号	3037

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	『詳説日本史Ｂ 改訂版』（山川出版社）						
副教材等	『最新日本史図表 五訂版』（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・過去の一点一点が「現在」につながっていることを認識し、現代社会が直面する諸課題について主体的に考察し、より良い社会を構築するヒントとする。
・グローバル化が進む現代において、現在自分が生きる国の歴史や在り方について必要な知識と理解を持つことにより、他国や異なる文化を理解し、尊重する姿勢を養うことができる。
・歴史は実証的な学問である。つねに公正かつ客観的な視点を持ち、歴史的事象を多面的かつ多角的に捉えることができる柔軟な視点が必要である。

２　学習の到達目標

私たちが生きる日本の歴史の展開を、世界の歴史や地理的な諸条件と関連づけて、諸資料に基づき客観的かつ公正に考察させるとともに、日本の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力および判断力を培い、グローバル化が進む現代において、主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、地域社会や異文化の歴史・文化を尊重し、国際社会に生きる人間として主体的に考察しようとする。	現代日本の諸課題を歴史的観点から考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史に関する諸資料から有用な情報を活用して探求し、自身の考えを論述したり、図表にまとめたりしている。	日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	日本文化のあけぼの	・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳と大和政権	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	a:時代ごとの社会や文化の特色を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができる。 b:東アジア世界との交流と社会の変化の過程を関連づけて考察する。 c:文献資料や考古資料から客観的かつ多角的に情報を読み取ることができる。 d:国家形成にいたるまでの基本的な知識を身に付け、その過程を理解する。	ワークシート 定期考査
	律令国家の形成	・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・天平文化 ・平安王朝の形成	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:律令国家が形成されるまでの過程と地方支配の動揺について多面的・多角的に考察する。 b:政権運営や文化の形成について、大陸との交流や仏教の需要を踏まえて考察する。 c:文献資料を基に政治抗争の進展と土地制度の変容を読み取ることができる。 d:律令に基づく政治体制や諸制度、国家仏教の興隆によりもたらされた仏教文化の持つ特色について基本的な知識を身に付ける。	ワークシート 定期考査

	貴族政治と国風文化	・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士	○ ○	○ ○	 ○ ○	○ ○ ○	a:律令体制の変容や国際関係の変化、荘園の展開を踏まえて政治運営や武士の台頭を考察する。 b:藤原氏の権力掌握の過程と武士の成長や反乱などから中世社会の萌芽を見いだす。 c:文献資料を活用し、地方支配の変質を客観的に読み取ることができる。 d:貴族を中心とする政治や社会の在り方と貴族の生活・文化を理解する。	定期考査 ワークシート
	中世社会の成立	・院政と平氏の台頭 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・蒙古襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化	○ ○ 	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:政治の動向、対外関係、経済や社会への政権の対応を踏まえて、武家政権の成立と変容について考察する。 b:武家政権の成立過程およびその変容について、社会の変化を踏まえて多角的、客観的に考察する。 c:絵画資料や文献資料を読解し、武士の生活や土地支配をめぐる地頭と荘園領主との紛争、仏教の新たな展開を読み取る。 d:院政の政治構造、武家政権の成立過程および封建制度の成立などについて基本的な知識を身に付ける。	定期考査 ワークシート

	武家社会の成長	・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○	a:庶民文芸の流行、戦乱の中で中央と地方の文化的交流の活発化を踏まえて、現代につながる地域文化の特色について考察する。 b:南北朝の動乱、室町幕府の成立、応仁の乱、戦国大名の登場にいたるまでの過程を、社会の変容を踏まえて考察する。 c:文献資料や絵画資料から東アジア世界との貿易や一揆の発生などが幕府や社会に与えた影響を読み取る。 d:諸産業の発達による中世社会の多用な展開や都市の発達を踏まえて、戦国期の日本の多様性を理解し、基本的な知識を身に付ける。	定期考査 ワークシート
二学期	幕藩体制の確立	・織豊政権 ・桃山文化 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	a:世界史的な背景を踏まえて、織豊政権、幕藩体制確立過程および確立期の経済・社会を多角的に考察する。 b:ヨーロッパや東アジアの動向、兵農分離策を踏まえて織豊政権の特色や意義、次の幕藩体制につながる影響を考察する。 c:文献資料や絵画資料から、政策の内容や意図を読み取る。 d:桃山文化の特色や幕藩体制下の支配体制、特質などについて基本的な知識を身に付ける。	定期考査 ワークシート

	幕藩体制の展開	・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化	○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	a:幕政の安定期について、諸産業の発展やその社会的役割を踏まえ、平和と秩序の確立の視点から考察する。 b:文治政治の転換から元禄文化について、町人の経済的繁栄を踏まえ、社会の変化と関連させて考察する。 c:文献資料や絵画資料から諸産業および経済の発達、それに対する諸政策の内容や意図を読み取る。 d:諸産業や経済の発展を踏まえ、安定期の幕政の諸政策について理解する。	定期考査 ワークシート
	幕藩体制の動揺	・幕政の改革 ・宝暦・天明期の文化 ・幕府の衰退と近代への道 ・化政文化	○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a:幕藩体制が動揺する中、行われた諸改革および近代化の基盤形成について、産業経済面や軍事面から考察する。 b:国際情勢の変化やそれに対する幕政の対応を踏まえて、幕府の衰退と雄藩の出現過程を考察する。 c:文献資料・絵画資料などから幕府や諸藩の諸政策の内容やその意図、化政文化における近代化への萌芽を読み取る。 d:列強の接近に伴う対応や社会の変容を踏まえた、諸改革の内容を理解する。	定期考査 ワークシート

	近代国家の成立	・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争 ・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:東アジアをめぐる国際環境が変容する中、新政府の制度改革や経済政策などに着目して近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 b:国家的統一がなされる中、国家的課題であった条約改正交渉が進展した過程や開戦に至る経緯について諸外国の動向と関連づけて考察する。 c:文献資料などから政府の諸政策の内容およびその意図、社会的影響などを読み取る。 d:国際化の中で進められた近代国家の政治・社会尾・経済の発展について、問題点も含めて客観的に理解する。	定期考査 ワークシート
	二つの世界大戦とアジア	・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a:国際社会における第一次世界大戦前後の政治の動向や社会運動の動向について関心を持ち、政党内閣の成立などと関連付けて考察する。 b:国際環境の推移を踏まえ、政府の国内・対外政策について日本の立場に着目して考察する。 c:文献資料などから政府当時の国際情勢と日本政府の動向を客観的に読み取る。 d:第一次世界大戦が日本の社会や経済にもたらした影響についてその内容もふくめて客観的な知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート

三学期		・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦	○ ○	○ ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	a:第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 b:日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について客観的に考察する。 c:文献資料などから政府当時の国際情勢と政府の対応について客観的に読み取る。 d:恐慌などの経済的事象や大戦についての基本的な知識を身に付け、客観的にかつ公正に理解する	定期考査 ワークシート
	占領下の日本	・占領と改革 ・冷戦の開始と講和	○ ○	○ ○	○	○ ○	a:連合国による日本占領の終結とその後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。戦後政治の動きを踏まえて、日本国憲法制定の意義を理解する。 b:戦後の世界秩序と東アジア情勢の変化を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革の経緯と内容、日本が独立した意義について客観的に考察する。 c:文献資料などから、諸政策の内容や意図を読み取る。 d:戦後の占領政策や冷戦の開始と講和について客観的な知識を身に付け、理解する。	定期考査 ワークシート

	高度成長の時代	・55 年体制 ・経済復興から高度成長へ	 ○	○	○	○	a:日本の国際社会への復帰に伴い生じた諸問題や経済成長がもたらしたひずみである社会問題に関心を持ち、その経緯について考察する。 b:国際社会の動向や経済復興とその後の高度経済成長を踏まえ、政治・外交、生活の変化などに着目して考察する。 c:文献資料などからその内容と意図を読み取る。 d:国際社会の動向を背景に国内の政治や経済、外交の諸現象についての知識を身に付け、客観的に理解する。	定期考査 ワークシート
	激動する世界と日本	・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容	○ ○	○ ○		○	a:科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。 b:冷戦体制の終結とそれに関わる国内外の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて、多面的、多角的に考察する。 c: 文献資料などからその内容と意図を読み取る。 d: 国際社会の動向を背景に国内の政治や経済、外交の諸現象についての知識を身に付け、客観的に理解する。	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。